



積み重ねが大切, 1つずつ丁寧に

赤坂英二郎

弘前大学大学院医学研究科皮膚科学講座教授

みなさん、優れた皮膚科医とはどんな皮膚科医だと思いますか？ 人それぞれかと思いますが、「優れた診断能力」をもっているのが優れた皮膚科医の大前提ではないでしょうか？ 診断ができなければ治療はできませんから、では、適切に診断するためにはどのような能力が必要でしょうか？ 私は①皮疹および問診から多くの鑑別診断をあげる能力、②鑑別のための適切な検査を選択・施行できる能力、③検査結果を適切に解釈し最終診断を選択できる能力、が重要と思っています。皮膚科医は臨床経験を積み、おのずとこれらの能力はある程度身についてきます。しかし、経験を積み重ねれば、1つ1つの症例と丁寧に向き合ったかそうでないかによって、その能力には大きな差が生じてきます。

一般的にわれわれは、皮疹をみて、ダーモスコピーをみて、病理組織をみて診断します。もちろんほかの検査を組み合わせることも多々ありますが、ここではシンプルにこの3つのステップで考えます。「診断できた、よかったよかった」とそこで終わってしまうと、診断能力はなかなか上昇しません。そこからもう一度、病理組織、ダーモスコピー、皮疹へと立ち返ることが大切です。具体的にいうと、私はどんな皮疹でも、まずマクロな視点で形状、色調、大きさ、分布や数、周囲との境界をチェックし、その後ルーペを使ってミクロな視点で皮疹の性状を確認するようにしています。昨今はさまざま

な検査技術が発達し、皮疹を詳細に観察しなくても診断できる疾患が増えてきているかもしれませんが、皮膚科の診療で一番大事なことは、皮疹をしっかりとみることです。そして臨床像から、病理組織とそこでおこっている病態を想像してから、ダーモスコピーをみます。その後、病理組織を確認して診断を確定したのち、改めてダーモスコピーと皮疹を見返し、自分が初診時に想像した病態と合致しているか答え合わせをします。そうすることで初診時に見えなかった所見がみえてくることもあります。このようなプロセスを繰り返していくと、臨床像とダーモスコピー像と病理組織像が連動した回路が形成され病態の理解が深まっていきます。そしてこの一連の作業こそが、皮膚科診療のもっとも面白いところであり、他科にはない皮膚科独特の魅力だと感じています。

このようなステップを1つずつ丁寧に積み重ねていくことこそが、優れた診断能力をもつ優れた皮膚科医へ近づく唯一の方法だと思います。近道はありません。私もゆっくりと少しずつでいいので、皮膚科医として生涯成長し続けていければと思っています。